



はぐくみ

心ゆたかにたくましく 笑顔であいさつ!

立花北小学校 校長室だより
令和7年9月12日発行 No.4
「おかえり！」
発行者：佐野 正信

おかえり！

学校というところ、長い夏休みが終わって子どもたちが戻ってくると、一気に活気づきます。やっぱり学校の主役は子どもたちです。始業式の日、黒板に書かれた先生からの「おかえり」メッセージをうれしそうに眺めている子どもたち。「おかえりなさい」と言われる場所がいくつもある立北の子どもたちは幸せだなと思います。

さて、長い休みの後は、学校や仕事に足が向きにくくなるのは、大人も子どもも同じです。まだまだ残暑が厳しい中、ちょっと不安そうな顔で登校してきた子どもたちも、学校で友だ



ちや先生たちといっぱいおしゃべりをすると、帰るときには笑顔になっています。いつも、通学路でお声かけくださる地域の皆さま、校門前で温かく見守ってくださるボランティアのお母さま方には感謝申し上げます。

「心と体のほっとウィーク」を経て、少しずつ心と体のスイッチが入っていく子どもたちですが、週明けの月曜日はまた少し逆戻り、また一週間かけて少しずつ元気になっていく…それらを繰り返しながら、2学期はすすんでいきます。残暑も厳しく不安定なこの時期、毎朝、子どもたちを送り出してくださる保護者の皆さまは、本当に大変だと思います。何かお困りのことがありましたら、一緒に考えさせていただきますので、遠慮なく学校までご相談ください。

そんな2学期の生活目標は『助けて助けて助け合おう』。立北小校歌の歌詞にあるように、「力いっぱいおびて、助け合いつつすすむ」そんな2学期にしていきたいものです。



あっぱれ！ 思いのこもった夏休みの作品展

夏休み作品展はご覧いただけましたでしょうか。今年も見ごたえのある「力作」がいくつも並びました。一つ一つの作品・研究からは、一生懸命に取り組む子どもたちの姿が浮かんできて感動しました。



いつもながら、作品から伝わってくるのは、子どもたちの「思い」、そして、ご家族との「つながり」です。どうしてこの研究をすることにしたのか、作品や研究でどのあたりに苦労や工夫があったのかなど、一つ一つをじっくり味わっていると、全学年を見終わるのに実に6時間もかかってしまい、クタクタになりました。しかしながら、感動いっぱい心地よい疲れです。中には、おじいちゃんやおばあちゃんが



きっかけに始めた研究や、味や意見を家族に聞いてまとめた実験など、ご家族の様々な支えを感じるものがありました。また、理科室（1，2学年）→家庭科室（3，4年生）→生活科室（5，6年生）と、部屋を移動するたびに、子どもたちの成長を感じました。学年が進むと、自分の好きな分野や得意な分野をしっかりと定めて深めている子どもたちがどんどん増えていくのです。市の作品展等に選ばれたものはもちろんのこと、そうでない作品の中にもキラリ！と光る作品がたくさんありましたので、スペースに限りはありますが、今年も中央玄関の展示ブースに飾りたいと思っています。ぜひオープンスクールの時にはご覧いただけたらと思います。

校長 佐野 正信